

1 主題構成表

主題名 セルフジャッジ
資料名 セルフジャッジ

<p>■内容項目C 規則の尊重 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り，自他の権利を大切にし，義務を果たすこと。</p>	<p>■内容項目から見た児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始の時間を守り，自分たちで声をかけ合い，着席をすることができる。 ・週に一度，学級遊びを設定し，自分たちでルールやチームを決めて遊ぶことができる。 ・その一方で，教師が見ていないと静かにできなかつたり，きまりを守れなかつたりするところがある。 ・楽しいことがあるとそれに没頭してしまい，きまりやルールを守れなくなることがある。 <p>(要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修を通して学んだ自立や協力の大切さや難しさを日常に生かすことができている。 ・自治の気持ちが芽生え始めている児童も多い。 ・見られていなければ大丈夫，これくらいならいいかという気持ちがある。 ・きまりを守り自分を律する力が弱い。 	<p>■資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本教材は，主人公がクラスのみんたと遊んでいる際の出来事が描かれており，児童にとって身近で入り込みやすい内容となっている。 ・審判を置かずにお互いの判断で試合を進めるセルフジャッジでサッカーをしたところ，それぞれのチームがやりたい放題になり試合が面白くなくなった。「好き勝手をやるからだ」と，どの児童にも道徳的課題は明らかである。 ・ゲームが面白くなくなった原因を考える過程で，セルフジャッジの理念と好き勝手を比較するだけでなく，ルールを破ってしまう心情にも触れることで自分の弱さに向き合うことのできる教材といえる。 ・本教材を通して，自分の弱い心と向き合い，それに打ち勝ち，相手のことを考え，きまりを進んで守っていこうという態度を養いたい。
---	--	--

■ねらい
きまりが何のために存在するのかを考えることで，自分だけでなく周りの気持ちを守るためにあることに気づき，進んできまりを守り，自分の義務を果たしていこうとする態度を育てる。

■研究内容に関わって

【研究内容Ⅱ】仲間と考えを深め合い，自分自身を見つめることができる道徳授業のあり方

- (1) 児童の学習状況を具体的に描いた指導と評価の一体化
 - ・好き勝手にセルフジャッジをした際の主人公の気持ちだけでなく，周りの気持ちを問い返し，自分も周りも楽しくなくなったことについての意見を多面的に出し合うことで，きまりは自分も含めた全員が楽しむためにあることに気付くことができるようにする。
- (2) 多面的・多角的な考えを引き出し，価値を深める指導過程の工夫
 - ・導入において，ICT機器を使いセルフジャッジについての自分の立場を明確にして，意見を出し合うことで，きまりに対する児童の考えを多様に引き出すことができるようにする。

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>◇きまりについての考えを確認し合う。</p> <p>○セルフジャッジというやり方について、あなたは思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながルールを知っていてルールを守れば審判はいらないと思うので賛成。 ・審判がいないとわざと反則をする人が増えるから反対。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器のポジショニング機能を使い、仲間の立場を視覚的に捉えることができるようにする。 ・きまりに対する児童の考えを自由に出させる。
展開前段	<p>◇資料「セルフジャッジ」を読み、きまりを守る大切さについて考える。</p> <p>○ゲームが面白くなくなったのは、「ぼく」がどんな気持ちでセルフジャッジしたからだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝ちたい気持ちが強かった。 ・周りもやっているからという気持ちがあった。 ・好き勝手にやりたいという気持ちがあった。 ・これくらいならいいやという気持ちが強かった。 <p>◎「ぼく」が好き勝手にやっているときの周りはどういう気持ちだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでルールを破るんだ。許せない。 ・もうどうでもいいか。あきらめよう。 ・向こうがルールを破るのならこっちも好き勝手やろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【深めの発問】</p> <p>○この状況を見ていた、レクリエーション係の健二くんはどういう気持ちだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケンカが起きてしまって悲しい気持ちになっている。 ・もうレクリエーションを考えたくないと思っている。 ・せっかく楽しめるように考えたのに残念に思っている。 <p>○きまりは何のためにあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが嫌な思いをせずに、楽しく過ごすため。 ・自分も含めた、みんなが楽しむため。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>きまりはみんなの「楽しくやりたい」という気持ちを守るためにある。</p> </div> <p>◇本時の授業で感じたことをもとに、自己を見つめる。</p> <p>○これからどんな気持ちできまりを守るのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これくらいいいや」という気持ちできまりを破っていたので、自分の弱い気持ちに負けずに進んできまりを守っていきたい。 ・今までは、なんとなく授業中に音を出してしまうことがあったが、みんなの「静かに勉強したい」という気持ちを守って授業に取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な気持ちを出させることで、きまりを破り好き勝手に行動する「ぼく」の心の弱さに共感させる。 ・挿絵の表情に着目させることで、周りがどう感じているのかも捉えさせる。 ・「好き勝手やるのは楽しくないのか」と問うことで、サッカーが成り立たなくなり、楽しくなくなっていることに気付けるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価の視点】</p> <p>深めの発問で、別の立場からの気持ちを問い、状況を多面的に考えることを通して、きまりを破ることで周りが嫌な思いをすることに気付いている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場や思いを構造的に板書に表すことで、全員「楽しくやりたい」という思いは共通していることに気付けるようにする。 ・きまりの意義について問うことで、自分も含めたみんなのためのきまりであることを確認する。また、守るべきみんなの気持ちはきまりによって異なることをおさえる。 ・ワークシートに記述し、自分のこれまでの生活を振り返ることで、実践への意欲や態度を高め、今後に生かすことができるようにする。
終末	<p>◇教師の説話を聞く。</p> <p>○きまりを守ることの大切さとその意義について。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んできまりを守っている姿を取り上げ、その価値を話す。